

報 告

第7回とくしま福祉機器展

とくしま福祉機器展実行委員会 中山 尚子

平成22年11月10日、11日の2日間、徳島市のふれあい健康館（徳島市生涯福祉センター）にて「とくしま福祉機器展」が開催された。このイベントは今回で7回目の開催で、両日あわせて来場者556名、ボランティアスタッフ137名、合計693名の動員があった。

1. 展示の様子

とくしま福祉機器展では、メーカーごとのブース割りではなく、ユーザーが必要としているものを探しやすくするため、生活シーンや動作、もの別のコーナー割りを行っている（ベッド、お風呂、トイレ、コミュニケーション、自助具、移動、UD、住まいの安全、福祉車両の9コーナー）。

第1回から第3回までは、スタッフのレベル向上も兼ねて、テーマを絞って展示を行ってきたが、第4回からは生活全般をテーマとした展示に切り替えを行っている。



図1 「第7回とくしま福祉機器展」会場の一部

とくしま福祉機器展実行委員会
〒771-4264 徳島市多家良町池谷175



図2 UDコーナーでは靴や衣服、家具など、人に合わせて選択・オーダーできる生活用品の展示も行った



図3 福祉車両コーナーでは、ドライブシミュレーターなど最新の機器も体験できた

会場ではPTやOTなどの医療職、ケアマネジャー、福祉用具販売業者など福祉関連職、建築やデザイン関連職など生活に関わる様々な分野のプロがスタッフとして参加し、来場者の相談にのったり、フィッティングの補助を行ったりしている。

とくしま福祉機器展の考え方の基本は、「LIFE」にある。「LIFE」＝「生命、生活、人生」を表す言葉だ。私たちはものや動作だけではなく、ひとりひとりを感

情のある主体として、それぞれの生活の連續性やそれを取り巻く環境まで視野に入れたサポートを目指している。まだまだ展示やサービスの点で不十分な部分は多く、課題は山積しているが、継続していくことによってパワーアップを図り、徳島らしい、徳島ならではの展示会をつくりあげたい。

2. 参加型体験イベント

盲導犬を育てる会による盲導犬との歩行体験や理学療法士会による体力測定、実行委員会スタッフによる車いす体験や高齢者疑似体験などの参加型の体験イベントも行った。また、カラーセラピーやアロママッサージなど障害の有無に関わらず楽しめるイベントも行った。このようなイベントなどの運営については、様々な団体・個人との連携の下、すべてボランティアで行われており、材料費の必要なセミナー以外は無料で開催されている。



図4 アイマスクを着用し盲導犬とブラインドウォークを行った

3. 当事者参加型イベント

障害のある当事者による「しゃべり場」は初の試み。介助される側という客体的存在ではなく、主体的な存在として、当事者が主役になれる展示会に一步近づけたのではないかと評価している。今後もこのような取り組みは継続して行い、当事者が展示会の企画や運営に携われるような組織作りを目指す。



図5 インターネットを活用し、しゃべり場のUST中継も行った

4. セミナーの開催

カラーユニバーサルデザイン推進機構の伊賀氏による「カラーユニバーサルデザイン」についてのセミナー やNPO法人阿波グローカルネットによる「家具転倒防止セミナー」を会場の2階会議室にて同日開催した。

5. おわりに

今回の福祉機器展にご来場のお客様の中に、母子で熱心に展示品をご覧になっていた方がいらした。母親は病気のため下肢が不自由で、言葉にも少し障害がある。家を出たがらない母親に娘が「こんなのがあるから見に行こう」と誘い、福祉機器展にご来場くださったそうだ。母親にとっては、これが半年ぶりの外出だったそうだ。帰り際に満面の笑みで「○○もよかったです、○○もよかったです。いっぱいいいものあった」とお話くださいました。福祉機器展の開催が外出のきっかけとなったことに、喜びを感じた一幕であった。

私たちの福祉機器展は、福祉機器というツールをきっかけに、人の心を動かし、人生を豊かにしていくお手伝いをしているのだと思う。だからこそ、一人の「ひと」の生活に関わる様々な職種のプロに関わっていただき、よりサポート体制を強化していくことが、この福祉機器展を開催する限り、常に目標とすべきことだと考えている。